

いま私たちが 「現場を支える皆さまにお届けしたい」こと

新型コロナウイルス感染症(COVID-19)拡大の終息が見通せない中、物資も充分とは言えない環境下においても、日々医療や介護の現場を支えておられる皆さまに対し、心からの敬意と感謝を申し上げます。

私たちTENAアドバイザーの活動も、従来のようにお客様を直接訪問しながらコンチネンスケアの取り組みを進化させるお手伝いをさせていただくことが難しくなっている中、多くの現

場スタッフの皆さまがより良いコンチネンスケアの推進というテーマに挑戦し続けておられることに私たちも勇気をいただいています。

昨今のお客様との対話の中で、「感染対策を組み入れたコンチネンスケアの在り方」についてご相談をいただくことが増えてまいりました。

ユニ・チャーム メンリッケではこのたび、TENAサービスの監修をして頂いている梶原敦子さんに、現場の皆

さまがより安全に安心して日々のケアを実践していただくための留意点をまとめて頂きましたので「リーエンダ with TENA」第3号として発行いたします。

まだまだご苦労は続きますが、皆さまにとって有効な情報となれば幸いです。

ユニ・チャーム メンリッケ株式会社
代表取締役社長 森田 徹

とてもたいせつな「排泄ケア」と「感染対策」のコト

梶原 敦子さんに聞く

(排泄ケアサポートセンター ウェルビーイングオフィスK代表)



梶原 敦子 (かじはら・あつこ)

日本赤十字中央女子短期大学卒業。病院での臨床経験し、都立公衆衛生看護専門学校保健学科卒業。東京都の保健師となる。2000年にコンチネンスジャパン(株)、2007年より東京総合保健福祉センター江古田の森、2012年に現在の事業所を開設し代表となる。NPO法人日本コンチネンス協会の理事に就任(2014年度～2016年度)。2020年3月千葉大学大学院看護学研究科看護システム管理学修士課程修了。著書に「コンチネンスケアに強くなる排泄ケアブック」西村かおる編著(共著)ほか。

個別ケアの基本は、利用者さんの状態を見極め自立に向けた支援をすることですが、排泄ケアについてスタッフ間での認識をあわせていくことは、「集団処遇による感染拡大」というリスクファクター除去の観点においても大いに役立ちます。

折からのコロナ禍の現場において、感染予防のためのケアルーティンの見直しが進んでいます。このことは医師・看護師・介護士・理学療法士・作業療法士・栄養士など多職種全員で、責任感や緊張感をもって徹底することが前提です。しかし、新型コロナウイルス感染症拡大の終息が見通せない中で、

継続的に取り組むことに限界をきたすことも懸念されます。

万全な感染対策ができたとしても人間のちょっとした気のゆるみで、穴を空けてしまうことが往々にしてあります。そこで重要なのが、こうしたケアルーティンのもつ意味・重要性を全員で共有する教育の機会と、それぞれの専門職が求められる手法・手順を徹底できているか確認し、全体を調整する役割者(推進役)の明確化です。

世界を巻き込んだ災厄の中で、額に汗するエッセンシャルワーカーの頑張りに期待するだけでなく、システムチックに感染予防に取り組める組織体制

の確立も重要ということなのです。

これまで私たちが取り組んできたCST活動(コンチネンスケアサポートチーム)は、その一翼を担えると考えております。今回の『リーエンダ with TENA』では、介護施設現場で役立つ実践的な取組について、排泄ケアの第一人者で、排泄ケアサポートセンターウェルビーイングオフィスK代表梶原敦子さんの協力を仰ぎ「排泄ケアルーティンのポイント」と「組織的に共有しておくべきポイント」にまとめていただきました。

(『リーエンダ with TENA』編集部)

〈排泄ケアルーティンのポイント〉

「エッセンシャルワーカーだからこそ 「感染しない」「感染させない」

新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、ケアの現場では目に見えないウイルスへの脅威、感染予防策やケア方法の見直しなどに追われる日々だと思えます。特に排泄ケアは3密のうち、密閉、密接が避けにくいケアになりますので、職員の皆さんは日々神経をすり減らすような精神的なストレスを抱える状況になっていることでしょう。しかし、こういう時期だからこそ、排泄ケアも感染予防策も基本に立ち返って今やるべきことは何なのかを冷静に考えて、安全で安心なケアが提供できるようにしていきたいものです。

「基本に立ち返る」

それでは、「基本に立ち返る」とはどのようなことをいうのでしょうか。それは排泄ケアでも感染予防対策であってもケアを行う際に基本的な決まり(物差し)を踏まえて行動するということです。排泄の個別ケアは「その方の尊厳を護り、よりよい暮らしの実現のためのケア」です。そして、排泄の個別

ケアには当然、感染予防策が含まれているのです。感染予防策においてはスタンダードプリコーション(標準予防策)に則った行動が基本になります。

この基本を理解できていないと、何か予測外のことが起こるたびに右往左往してしまうことになりかねません。基本を理解していれば予測外のことが起こったときに、この現状で何をすべきか出した答え(対策や対応)が、基本を踏まえているのだろうかと考えることができ、おのずとその答え(対策や対応)は的外れにはならないのです。

「個別ケア」と「感染予防」は 両立する

ここでは、排泄ケアルーティンをケアの側面と感染予防策の側面から考えてみたいと思います。この二つは互いに影響し合っていて、切り離せない部分が多々あります。排泄ケアの最も大切な原則は個別ケアです。おむつ交換車を使用して一斉に排泄ケアを行うのは感染を拡げる危険性が高くなります。個別ケアは感染対策の一つにもなるのです。

個別ケアを提供するためには利用者さん一人一人の排泄の状況をアセスメントしてその方にあった排泄ケア

方法を徹底することです。アセスメントには利用者さんを観察し、排泄パターンを記録することが必要になります。そして個別ケアを徹底するには、アセスメントに基づいたチームでの統一したケアが求められます。このことは排泄ケアの普遍的なケアの原則です。

「防護服」を透して伝える 「心を込めたあたたかなケア」

新型コロナウイルス感染症の伝播経路は飛沫感染と接触感染といわれていますが、排泄ケアにおいては密閉、密接が避けにくいいため、个人防护具(マスク、フェースシールド(ゴーグル)、ガウン(エプロン)、手袋)を使用してケアをする必要が出てきます。これはうつさない、うつされない、拡げないために必要なことになるのですが、ケアを受ける利用者さんにとっては、このように个人防护具を着けた職員からケアを受けることに対して不安を持たれることがあるかもしれません。

したがって、ケアの最中は口元が見えなくても、できるだけ笑顔と優しい声かけで不安を軽くすることや、陰部が常に清潔に保たれるようなケアを心をこめて手際よく行えることも必要に

〈組織的に共有しておくべきポイント〉

「みんなで続けるための組織づくり」

排泄ケアのみならず、施設で行われる全てのケアはチームケアになります。一人だけで何かを行うのには限界があり、チームケアを徹底するためには組織的にチームを動かす仕組みが必要になります。

ここでは、組織的に共有しておくべきポイントを、①感染予防対策としての側面②チームケアの側面③管理者の側面から考えてみたいと思います。

「マニュアル実践のための 「教育(研修)」

感染予防対策の側面から必ず必要に

なるのが、マニュアルの整備です。職員がどう行動すべきなのか具体的に表現されているマニュアルが必要です。

多くの施設では、決められた排泄ケアの手順や感染予防マニュアルなどは備えられていると思います。しかし、それらを業務が忙しい、面倒等という理由で自分勝手に省略したり変えてしまったりしていることが時に見受けられます。これでは手順やマニュアルを作成した意味がありません。チームでケアをしている場合、自分勝手な行動は感染のリスクを高めるだけでなく、個別ケアの徹底もしにくくなります。

そこで、マニュアルを確実に実行するためには教育(研修)が最も重要に

なります。研修は職員さんに危機意識を持ってもらう機会になり、マニュアルの遵守に繋がります。教育を徹底するには、委員会がその役割を担うこととなります。指針やマニュアル等の統一した基準を作り、それを遵守するための体制整備をし、全職員が研修を受け、現場で実践できるまでが委員会の役割になります。



なります。

また、パッドからの尿や便の漏れは感染のリスクを拡大させてしまうことも考えられますので、正しく丁寧にパッドが装着でき、漏れないことも大切になります。

「スタンダードプリコーション」の重要性と実際の「手順」

感染予防策の側面を考えると守るべきはスタンダードプリコーションです。スタンダードプリコーションは「感染症の有無にかかわらず、あらゆる利用者、患者に対して普遍的に



適応される予防策で、『汗を除く全ての血液、体液、分泌物、損傷のある皮膚・粘膜は感染性病原体を含む可能性がある』とみなして予防策を講じる」ことです。

排泄ケアにおける具体的対策としては、「一処置ごとの手洗い（手指衛生）」、特に手袋着用時の注意としては、着用前後に手指衛生が必要になることです。手指衛生については、目に見える汚れがある場合は、石けんと流水で

手を洗い、目に見える汚れがない場合は、速乾性のアルコール製剤を使用します。しかし、手指衛生を徹底することで手荒れが生じることもありますので、日々の手指のスキンケアも大切になります。

他の対策としては「個人防護具の着用や適切な廃棄」「汚染したリネンや使用した用具類の適切な処理」「環境衛生」などになります。陰洗ボトルなどは個人使用とし、他の用具などは可能な限りディスポーザブルの使用が望ましいのですが、施設においては困難な場合も多いと思われるので、使用後の処理方法や消毒方法をマニュアル化しておく必要があります。

根拠に基づく感染対策を

そして感染対策は常に科学的根拠に基づいて行われる必要があり、過剰な消毒薬の使用や、空気中に次亜塩素酸ナトリウムの希釈液を噴霧するなど根拠のない、時には誤った対策がまかり通っている場合がありますが、これは感染予防に役立たないどころか人に対して害を及ぼすということにもなりかねません。

「感染経路を断つ」「換気」「消毒」

環境への配慮ということでは、換気と環境清掃があります。窓のある環境では、可能な限り2方向の窓を同時に開けますが、廊下側のドアを開けるのは望ましくありません。どの程度の換気が十分なのかは明確なエビデンスはありませんが、排泄ケア中に換気を始め、ケア後は5分～10分程度の換気が必要かと思われます。

また環境清掃については、高頻度の接触面の清掃は、1回/日以上ドアノブや手すり、ベッド柵、蛇口、トイレ周辺のドアノブや手すり、壁を0.05%の次亜塩素酸ナトリウムを使用して念入りに清掃することが必要です。清掃時にはマスク、エプロン、手袋を着けて行うことは言うまでもありません。



コミュニケーション・多職種連携を盛り上げる「排泄ケアのチーム活動」

次にチームケアの側面からですが、チームでケアを提供するのですから情報の共有が重要になります。それには風通しのよい職場環境、多職種との相互理解と日頃からコミュニケーションを欠かさないことが必要になります。そのことで、多職種との役割分担によるチームプレーができるようになります。

そして、その機会となるのが、CST（コンチネンスケアサポートチーム）と感染対策委員会等とのコラボレーションによるケアの確立です。コラボレーションすることで、施設全体に情報が行き

渡りやすくなりますし、委員同士のコミュニケーションもとりやすくなるのが、職員間のコミュニケーションのとり易さにも繋がるのです。

管理者は現場体制の「後ろ盾」に

管理者の側面からみてみましょう。管理者もこの時期は職員同様不安や苦勞を抱えていらっしゃると思います。しかし、こういった時期だからこそ管理者に求められることがあります。それは職員が作っている体制の後ろ盾になることです。職員も迷いがあり不安にさいなまれています。だからこそ、「大丈夫、と支えてくれる管理者が求められるのです。

感染予防策に必要な物品（物資）が不足していたり、経済的に費用が大幅にかさんだりしていることでしょうか。しかし、職員を守ることは利用者さんを守ることに繋がるので、なんとしても必要な物品（物資）は調達して頂きたいのです。

そして、職員さんの力になり支えになるのは、「この状況はいずれ改善する。そう信じて毎日を職員と共に頑張ろう」という思いです。そして、苦勞している職員さんにかけて「よく頑張っているね、という評価とねぎらいだったり、「一緒にがんばろう！、というやる気の引き出しだったりするのではないのでしょうか。



排泄ケアルーティーンのポイント

ケアの側面（安全・安心）

- アセスメントに基づいた個別ケアの徹底（一人ひとりにあったケア）
- 排泄の自立を促すケアの提供
- チームケアの徹底
- ケア中の笑顔（見えなくても）とあたたかい声かけ（気兼ねさせない配慮）
- 心はこもっているが、手際が良い
- パッドの当て方が正しく丁寧で気持ち良く漏れない
- 陰部が常にきれいに保たれている（汚れが残らない）

感染予防策の側面

- スタンダードプリコーションがしっかり守られている
- 科学的根拠に基づいた感染予防策を排泄ケアでも徹底する
- 環境への配慮（換気、環境整備）



組織的に共有しておくべきポイント

感染予防策としての側面

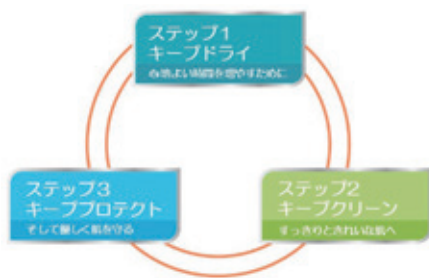
- マニュアルの整備
- 教育（マニュアルの遵守、危機意識を持つ）
- 委員会の設置（統一したケア基準作成とそれを遵守する体制）

チームケアの側面

- 情報共有
- 多職種との相互理解と役割分担によるチームプレー
- CSTと感染対策委員会等のコラボ

管理者の側面

- 体制へのバックアップ
- 必要な物品の調達
- 職員へのねぎらいとコミュニケーションの徹底



ウェルビーイングへの 想いがこもったTENA製品

TENAの「3STEPサイクル」は、TENAパッド製品とTENAスキンケア製品の効果を高めあい、お一人おひとりのウェルビーイング（心身ともに健康で毎日充実した生活を楽しめるように）を実現し続けるためのステップです。
私たちはTENA製品をお届けし、コンチネンスケアと感染予防対策を組織的な側面を踏まえて皆さまとともに考えていきたいと思えます。

キープドライ 心地よい時間を増やすために

安全と安心をお届け！ お一人おひとりの暮らしをまもるTENAパッド製品

STEP
1



TENA コンフォート
TENA パンツ
TENA フレックス
TENA スリッパ 等

キープクリーン すっきりときれいな肌へ

保清・保湿・保護を実現！ 飛沫が起こりにくく陰部洗浄に代わる有効なケア方法の一つ

STEP
2



TENA ウォッシュクリーム 250ml（清拭用ふきとりクリーム）
TENA ウェットワイブ 50枚入り（全身・おしり用ウェットタオル）

キーププロテクト そして優しく肌を守る

外的刺激からまもる！ いつまでも肌を心地よく

STEP
3



TENA バリアクリーム 150ml（皮膚保護クリーム）

水様便など発生時、モレにくさへのひとつの工夫



ニュースキンクリーンコットン

ポリエステル繊維により尿や水様便をろ過し、すばやく透過させ皮膚への付着を防ぎます

日々のケアで活躍しているディスプレイブルなアイテム



陰洗時の拭き取りに
TENA ソフトワイブ



お食事でこぼしやすい時に
TENA ビブ